

## 破綻明らかなサッチャー改革

# モデルにした 「不公正な教育体制」

シリーズ 3 最終回

## 安倍首相の斬っ 教育論を切る

全教副委員長 山口 隆

研修」2005年11月号)という明快なものです。

また、雑誌「世界」2006年9月号で、全国一位の学力水準の成績をあげた学校の校長は、イギリスの教育制度について「ナショナルテストで学校を不必要に競争させ、結果を公表して序列化するシステム」であり、「確実に敗者をつくる不公正な教育体制」「教育への市場原理の適用はなじまないし、間違え」と手厳しく批判したことが紹介されています。

さらに校長は、「政府の干渉が強まり、学校と教師は窒息しそう」と述べ、政府作成授業プランについて、「教師の獨創性を殺す以外の何もでもない。何日目に何を教えない、と政府が規定するのは子どもに関心、興味を無視した愚策」と述べ、「この学校が全国一の成績をあげたのは、政府指導をすべて無視した授業をしているから」と言明しています。

失敗は明らかであり、安倍内閣も手をつける前に、抜本的に見直すべきです。■

安倍首相は、著書「美しい国へ」で「全国的な学力調査を実施、その結果を公表するようにするべき」とし、「学力ばかりでなく、学校の管理運営、生徒指導の状況などを国の監査官が評価する仕組み」を導入すると述べています。そして、これらをイギリスのサッチャー改革をモデルに、首相直属の諮問機関「教育再生会議」を新たに設置して推進しようとしています。

サッチャー改革とは、学習指導要領をつくり、全国一斉学力テストを行い、そのテスト結果を番付表で公開する。そして、「問題のある学校」には、「監査官」を派遣して「改善計画」の作成を命じ、1年後に「改善」がみられなければその学校を「統合または閉鎖」するというものです。しかし、イギリスではこの破綻が明らかになっています。イギリス4地方のうち、北アイルランドに続いてウエールズも07年度までに全国一斉学力テストの廃止を決めました。理由は「教師と生徒の双方にとって弊害が大きすぎる」（「教職